

生徒対応力を高める教職員研修と学校満足度が向上する

アンビシャス学習プログラムの構築

平成 30 年度 成果物報告

学校法人 創志学園

## はじめに

クラーク記念国際高等学校（以下「クラーク高校」で記載）は1992年に開学し、現在39都道府県を学区とし、教育活動を展開する広域通信制高等学校であり、約1万1千人の生徒が在籍する。クラーク高校では、何事にもまじめに取り組む生徒が多いが、一方で小中学校での不登校経験により心に傷を負っている生徒も少なくない。そのような生徒達もクラーク高校に入学すると、週5日コースで毎日朝から通学し、全日制高校と同様の生活を送っている。クラーク高校では多様な生徒を指導していくうえで、学習面はもとよりメンタル面も多角的・重層的に支えるために、系統立てた教職員育成プログラムの開発に取り組んでおり、初任者研修、授業研修および基礎的なカウンセリング研修も実施している。しかし日本全国に展開する広域通信制の特性上、クラーク高校内には教育の質、教職員の力量においても地域格差が起こる可能性は否めない。本研究を通じてクラーク高校の教育システムと教職員研修システムの質向上を図り、広域通信制高校のモデルとなる取り組みを提示できればと考えている。

### 〈クラーク記念国際高等学校の研究について〉

#### 1. 研究の目的・ねらい

平成29年度の校内調査にて、在籍生徒の不登校経験率は64.9%であることが明らかとなった。小中学校での不登校経験からリスタートをするために中学校の基礎学習から復習する制度を持つクラーク高校に希望を持って入学する生徒が多い。しかし、在籍生徒の中には未だ自信が持てず、学力にも不安を抱えている生徒が少なくない。そのためクラーク高校では「生徒意識調査アンケート」を毎年実施しており、その中の「学校満足度」結果を踏まえ生徒の状況や学校生活におけるニーズを捉えるように努めている。

本研究の目的は、毎日の学校生活が安心・安全な環境で行われていることを強化しつつ、クラーク高校の次のステージとして多様な生徒が更にモチベーションを高め、次の進路先をしっかりと見据えることができる生徒を育成することである。クラーク高校の3年間の学びで、将来への目的意識を高く持つことができる生徒を育成することで、次のステップでもより一層の活躍ができると考える。

そこで上記目的を3年後に達成すべく、本年度重点を置いた取り組みは以下のとおりである。

- (1) 教職員3年目研修制度の構築
  - (2) 生徒の情報共有と効果的な指導を目的としたICTの利活用の推進
  - (3) 教育活動におけるICT教育の推進
  - (4) キャリア教育の構築と推進
- ※平成30年度より週5日コース1年生全生徒及び教職員にタブレットを導入
- (5) いじめの対応について

上記（１）（２）においては、不登校経験がある生徒への対応術を学ぶ１年目の研修に追加して、３年目教職員を対象にしたキャリア教育を含めた新たな研修制度の構築を行う。またICTを活用した効果的な情報共有・活用の推進を通して教職員個人及び教職員集団の生徒対応力を向上させる。そのことでより一層の安心・安全な環境のもとで、前向きに学校生活を送ることができると思う。また上記（３）（４）においては、ICTを効果的に取り入れた教科教育やキャリア教育の構築・推進を通して、急速に変化する社会において必要とされる資質・能力の向上を目的とした生徒の育成を目指す。また（５）に関しては、新しい学習プログラムを構築していくうえで、「いじめ」についても調査を行い、教職員はいじめの早期発見・早期対応に努め、個々の生徒が全力で学習に取り組める環境を整える。

具体的な効果を測定する指標としては、主に「生徒意識調査アンケート」における「学校満足度」を活用する。１年目に関しては週５日コースを設置しているいくつかの施設を研究対象とし、「学校満足度」の数値をもって、上記重点的な取り組みの効果検証を行う。またそれらの検証をもとに次年度以降の研究を勘考していく。



広島大学栗原慎二教授を囲んでの検討会議（写真左）と栗原教授の管理職研修（写真右）

## 〈平成 30 年度 研究内容〉

### 1. 教職員 3 年目研修制度の構築について

#### (1) 実施目的

クラーク高校では入職 1 年目の教職員に対し、①初任者研修、②授業力研修、③学習心理支援カウンセラー基礎課程、④入試広報研修等の研修を行っている。授業力研修においては、指導力の向上を目的として、全教職員対象に毎年、模擬授業と学力試験を実施している。学習心理支援カウンセラー研修においては、基礎課程以外にも実践課程と専門課程を設置しており、希望者に対して研修を行っている。入職 3 年目の教職員の取得状況は、基礎課程（100%）、実践課程（28%）、専門課程（3%）となっている。尚、専門課程修了者は『学校心理士』の受験資格を取得できる。

今年度の研究では、クラーク高校の次世代を担うミドルリーダーの早期育成を目的に、入職 3 年目の教職員への新たな研修に取り組んだ。本研修は、クラーク高校が現在重点を置く「ICT 教育」「キャリア教育」に加え、研修対象者に事前に行ったアンケート結果からニーズの多かった「学級経営」を中心に構成した。

#### (2) 入職 3 年目教職員のニーズを理解するための「3 年目研修 事前アンケート」の結果

入職 3 年目教職員に対して行った事前アンケートの結果は以下の通りである。

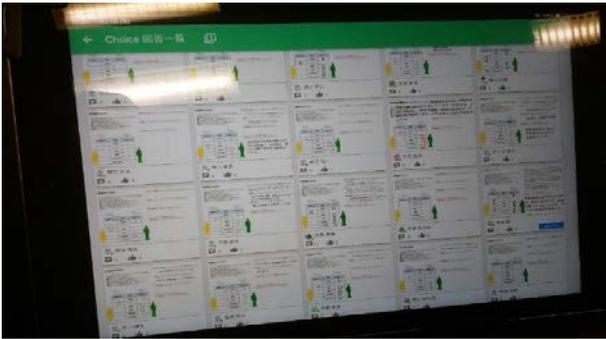
##### 【「3 年目研修 事前アンケート」の主な結果】

現状、クラークに勤めてここまでで最も力がついたと思うものを選んでください。		
1位	授業力	48%
2位	学級経営	33%
3位	不登校生徒の対応と支援	31%
あなたが不安に思う業務にはどんなものがありますか？		
1位	学級経営	54%
2位	発達障がいのある生徒の理解	49%
3位	生徒指導	46%
3位	不登校生徒の対応と支援	46%
今、あなたが力を入れて、やりがいを感じて取り組んでいる業務は何ですか？		
1位	学級経営	61%
2位	授業	46%
3位	不登校生徒の対応と支援	28%
今、あなたが業務上特に必要としているスキル、高めたいスキルはどんなものですか？		
1位	学級経営	71%
2位	授業	59%
3位	不登校生徒の対応と支援	48%

### (3) 3年目研修の内容

#### ①生徒個々によりそった学級経営の在り方（研修担当：6年目教職員）

本研修では、まず初めに社会の急速な変化と共に、求められる資質・能力が様変わりしていることを改めて共有した。その上でこれからの学級経営では、今まで以上に生徒一人ひとりに対して個別的かつ多面的な見方が求められることを伝えた。またそのような学級経営の実現には、生徒の様々な情報の一元管理が重要であり、それらを可能とする『個人カルテシステム』（本校独自システム）の有用性についても共有した。



(教職員が生徒分析を行った結果をスクリーンに投影している様子)



(個人カルテシステムのログイン画面)

#### ②進路実現につなげるキャリア教育（研修担当：6年目教職員）

キャリア教育では、生徒が将来のキャリア形成を思い描きながら、何を学び、そして何を目的に次の進路へ向かうのかを考える学習機会の創出と主体的に学びに向かう資質・能力の育成が重要であることを共有した。またそのような数値で測ることの困難な資質・能力は、ポートフォリオやルーブリックを活用することにより、評価が可能となることを伝えた。



(ポートフォリオについての解説を受ける様子)

#### ③豊かな学級経営を目指した生徒指導・登校支援（研修担当：10年目教職員・22年目教職員）

最初にグループワーク等を用いて教職員の自己分析を行い、個々の得意・不得意分野の整理を行った。次にタイプ別に生徒の行動パターン、目標の立て方、モチベーションの上げ方等を確認した。普段のかかわり方や面談の組み立て方を考える中で、改めて生徒の数だけ個性があることを共有した。最後に自分の受け持つ生徒の事例を話し合い、豊かな学級経営の実践に向けた対応方法や解決方法を共有した。



(教職員が生徒役と教師役に分かれ模擬面談を行っている様子)

#### ④ミドルリーダーとしての心構えと行動指針（研修担当：11年目教職員）

教職員は、社会や生徒・保護者のニーズの多様化に適切に対応して教育を行う必要がある。その為には、教職員が一人で抱え込まずチームで解決すること、また本研修のような横のつながりを活用し、情報共有を強化していくことが重要であることを伝えた。最後に参加した教職員には、次世代を担うクラーク高校のミドルリーダーとして、後輩教職員をフォローし、彼らが前向きな姿勢で教育活動に従事できるようにサポートすることを伝えた。



（ミドルリーダーの重要性について説明を行っている様子）

#### （4）「3年目研修 事前・事後アンケート」の結果について

本研修の事前・事後にとったアンケートの主要な項目の結果を比較すると、いずれの項目も向上しており、一定の成果があったと判断できる。本研修は入職3年目の教職員にとって、これまでの個々の教育活動を振り返り、検証する良い機会となった。

来年度の開催も決まっており、実施時期についても事後アンケートの結果を踏まえ8月とした。今後も引き続き教職員育成に力を入れていき、更なる研修体制の向上を目指す。

#### 【3年目研修 事前・事後アンケート結果】

主要なアンケート項目		事前	事後	差
①	3年目教職員に求められる力（ミドルリーダー）を具体的にイメージできている	2.9	4.2	+1.3
②	ICTを活用した学級経営がイメージできている	3.0	3.9	+0.9
③	進路実績をあげるキャリア教育についてイメージできている	2.9	3.9	+0.9
④	これまでの研修を通して生徒指導のイメージをもつことができている	3.5	4.1	+0.6
⑤	キャンパス外に相談できる相手がいる	2.9	3.6	+0.7
⑥	明日からも頑張ろうと意欲をもっている	3.4	4.1	+0.7
平均		3.1	4.1	+1.0

※各項目5段階評価で実施

## 2. 生徒の情報共有と効果的な指導を目的とした ICT の利活用の推進

### (1) 個人カルテシステムについて

#### ①システムの開発目的

生徒一人ひとりの「学習状況」「目標達成状況」「学校活動状況」「性格・興味・特技」等を全教職員にて共有し、きめ細やかな生徒対応の実践につなげることを目的に本システムを開発した。

#### ②システム機能概要について

本システムには生徒一人ひとりの様々な情報が集約されている。これらの情報は、PC 端末だけでなくタブレット端末でも閲覧が可能である。また情報の登録に関しては、PC 端末やタブレット端末からも一部登録が可能であるが、多くの情報は、その他学内システムから本システムへ情報反映がなされる。以下に代表的な項目を記載する。

分類	ファイル名	情報内容 項目例	情報源【情報元】				
			カルテ	Webキャンパス	広報	出欠	学籍
基本情報	生徒基本情報	氏名・住所・保護者基本情報・前籍校情報、等					○
入試・広報	入学前情報	訪問履歴、担当者コメント、来校履歴、等			○		
学費	学費情報	請求情報、入金情報、等					○
指導履歴	指導履歴情報	指導区分、指導概要、添付ファイル、等	○				
目標設定	目標設定情報	面談記録、添付ファイル、設定情報概要、等	○				
成績	成績情報	科目評定、報告課題提出状況、Webキャンパス使用状況、等		○			○
出欠	出欠情報	科目別出席情報、等				○	
保護者	保護者問合せ情報	緊急連絡先、特殊情報。問い合わせ内容、等	○				
進路	進路指導情報	進学・就職受験・内定情報、面談指導情報、等	○				△
資格	賞・資格・検定情報	賞受賞履歴、取得資格情報、検定取得情報、等	○				△
日常メモ	日常メモ情報	日々、気づきメモ情報、その他、等	○				
面談	面談履歴情報	面談内容、添付ファイル、等	○				
クラブ	クラブ・委員会情報	クラブ所属履歴情報・委員会所属情報、活動内容項目、等	○				
留意事項	留意事項情報	留意分類、留意概要、添付資料、等	○				
課題	課題情報	課題管理情報、等	○				
履修	履修登録情報	履修登録情報、履修履歴情報、等					○
模試	外部模試結果情報	受験日、主催者、得点結果、等	○				
活動	活動履歴情報	活動履歴概要、写真・動画記録、等	○				
その他		お知らせ機能、誕生日情報、等	◇				

#### ③その他学内システムとの連携について

本システムは、上記図の通り『学籍システム』『入試・広報システム』『出欠システム』『Webキャンパス』の4つのシステムと連携している。これらのシステムとの連携は、毎晩バッチ処理にてデータ更新を行っており、個人カルテシステムにて同一情報の閲覧が可能となっている。

#### ④セキュリティについて

本システムは、ビッグデータを扱うため情報漏洩にも細心の注意を払っている。本システムは、「学内に設置しているVPN（仮想専用線）の環境下で接続される端末」または「登録のあるクライアント証明書がインストールされた端末」のみで起動する仕組みとなっている。また起動時の個人パスワードも一定時期を過ぎると変更しなければならない仕組みをとっている。合わせてログイン時には毎回『文字認証パスワード』の設定を必要としている。

#### ⑤操作画面イメージについて

代表的な情報照会機能に関しては、別添資料を参照。

## (2) 現状の活用促進について

現在、各キャンパスでは活用促進に向け、生徒一人ひとりの様々な情報入力を進めると共に、毎月、全国生徒指導部会にシステムへの入力状況の報告を行っている。全国指導部会では、報告内容をもとに活用事例の共有や指導を実施している。また学校説明会では入学希望者やその保護者に「個人カルテシステムの活用における1対1対応の在り方」の説明を行い、入学後の指導への安心を与える取り組みを行っている。

### 創志学園の考える 【才能開花教育】に導く『一対一対応教育』とは

生徒一人ひとりの『性格』『興味』『特技』『状況』を把握した上で、生徒それぞれに則した指導を学校全体で対応する

**生徒一人ひとりに対する『one and only』  
(唯一無二)な教育指導の実現**

### システムの概要

### システムの概要【機能概要】

1. 学習分野
  - (1) 成績情報
  - (2) 履修登録情報
  - (3) 出席情報
  - (4) 模試結果情報
  - (5) 賞・資格・検定情報
2. 目標達成状況
  - (1) 目標設定情報
  - (2) 進路情報
3. 学校活動状況
  - (1) クラブ・委員会等活動履歴
  - (2) 日常メモ
4. 指導状況情報
  - (1) 指導履歴情報
  - (2) 保護者問合せ情報
  - (3) 留意事項情報

全33種類情報を管理

### システム活用の方向性

- ・各生徒の目標を理解し、適切な指導で、目標を達成させる。
- ・日々の変化、成長を色々な角度より情報蓄積を行い、的確な指導を実施。
- ・全教職員が生徒一人一人を理解し指導を実施するために情報共有を図る。

【学校説明会でのシステム説明資料（一部抜粋）】

## (3) 今後の取組について

本システムが、今後本格的に「年度替わりの新担任への引き継ぎ資料」「保護者会等での生徒近況報告資料」、そして「生徒一人ひとりへの日々のきめ細やかな生徒対応を全教職員が一丸となって行える為の情報共有資料」等として、効果的に活用されるよう促進に努める。その為にも「入力作業の簡素化」「一覧出力機能の追加」等のシステム改善を検討すると共に、より効果的な活用を実施する為の活用事例研修も検討していく。

### 3. 教育活動における ICT 教育の推進

#### (1) ICT 教育に取り組むにあたって

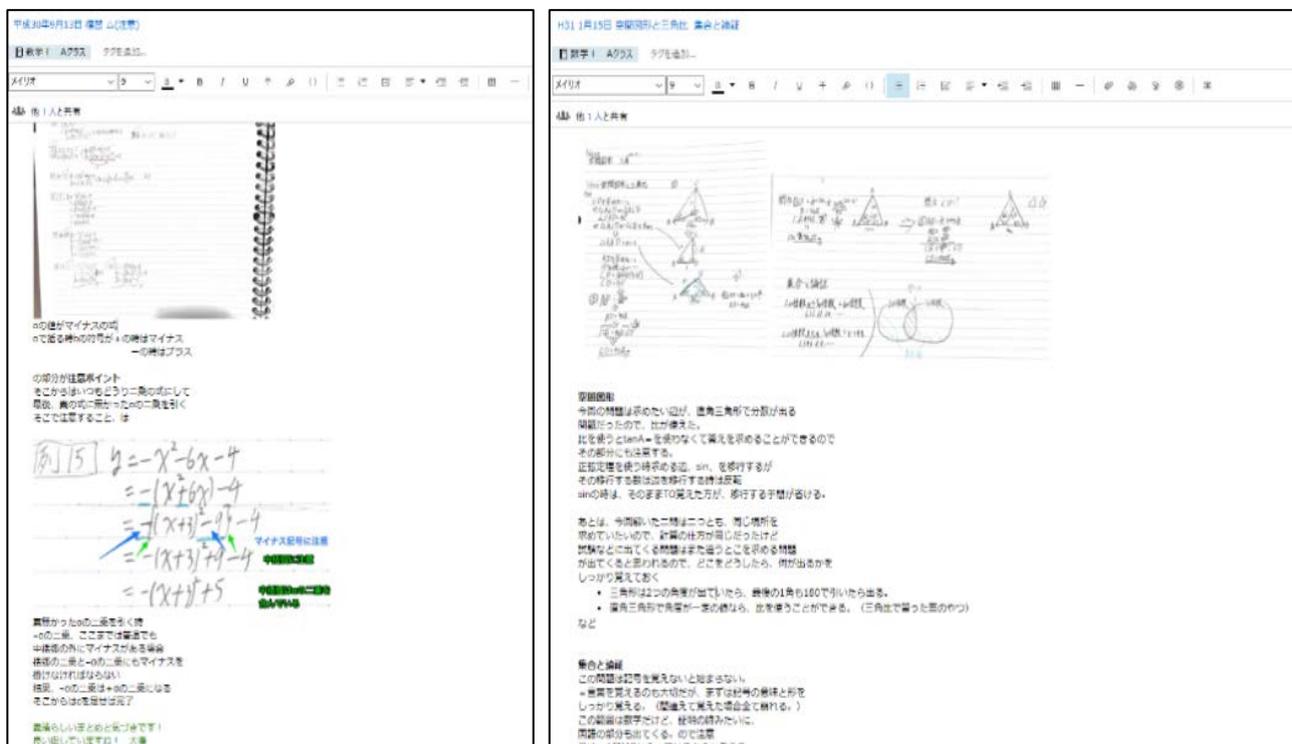
今後の社会では、自ら考え、判断し、行動する資質・能力を養い、課題解決に向かうことができる人材が求められる。そのような人材の育成には、「主体的・対話的な深い学び」の実践と、そこで養われる生徒の資質・能力を多面的に評価する必要がある。クラーク高校では、それらを可能とするのが ICT 教育と考え、推進に着手した。以下に『Evernote』『Brushup』『schoolTakt』という3種類のアプリを活用したクラーク高校の ICT 教育の取り組みを記載する。

#### ①『Evernote』の位置づけと取り組み

クラーク高校では『Evernote』を、高校生活で得る様々な学びを生徒自身が記録する場所として位置付けている。記録された情報は教職員にも共有可能であり、学びを通して得られた生徒の資質・能力の評価ツールとしての活用も可能である。

代表的な取り組みは、「振り返り学習」である。生徒は、学習を通して自身が「できたこと、できなかったこと」「疑問に思ったこと」「次に何に取り組むか」等の記録を『Evernote』に入力し、教職員と共有をしている。この「振り返り学習」を通して、生徒には自分自身が次に何に取り組むべきなのかを主体的に気づかせることができた。教職員には、生徒の理解度の確認ができるようになり授業改善につなげることが可能となった。

またこの「振り返り学習」をどの教職員も実施できるように、学習指導要領における教科の「見方・考え方」「声かけ例」を参考にフォーマットを作成・共有する工夫も行った。



【Evernote を活用した生徒の振り返り学習の例】

## ②『Brushup』の位置づけと取り組み

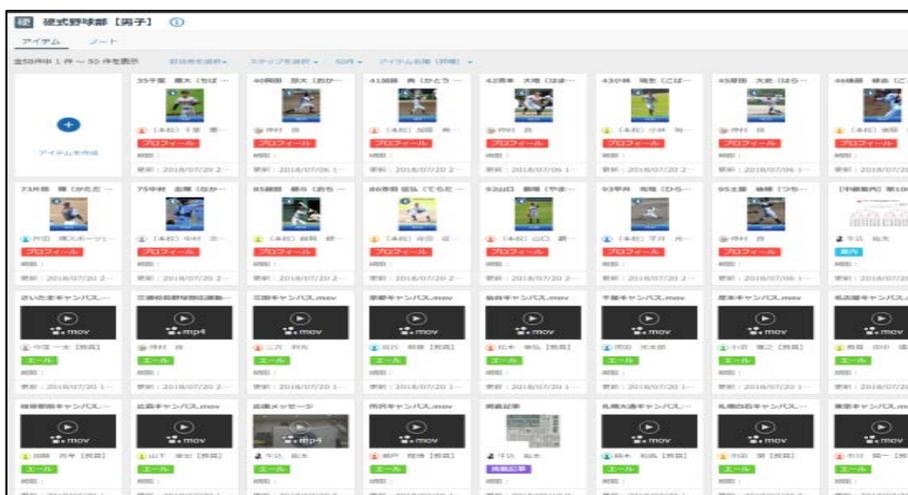
クラーク高校では『Brushup』を、生徒達がグループワークやディスカッションを通して作り上げたアイデアや成果物、また発表の様子を文書や動画として蓄積し、いつでも振り返り・見直しができるツールとして位置づけた。

代表的な取り組み事例は、課題解決型の授業での活用である。課題解決型の授業では、生徒は与えられた課題に対してグループで話し合い、考えをまとめ、発表を行う。生徒にはグループのアイデアをまとめた「プレゼンテーション資料」や「発表の練習風景を録画した動画」を随時、『Brushup』内に蓄積させた。蓄積されたデータを共有し、教職員がアドバイスを رفتたり、グループ内での振り返りから新たな気付きが生徒間で生まれたり、課題解決に向けた学習が効果的に促進された。今まで以上に生徒に対する「主体的・対話的な深い学び」の実践が可能となった。

また全国大会等の大きな大会に出場する生徒達への応援にも『Brushup』を活用した。全国のキャンパスで応援動画を撮影し、『Brushup』上に蓄積・共有を行い、全てのクラーク生をつなぐ活動に取り組んだ。これらの情報は、『Brushup』上に引き続き蓄積・共有される為、次年度以降に同様の応援をする際や、その他全国つなぐ新たな活動等を生徒や教職員が企画する際に活用をしていく。



【Brushup に蓄積されたプレゼンテーションの練習動画と練習動画に対する添削コメント】



【Brushup 内に蓄積し、共有した全国の生徒からの応援メッセージ動画と選手プロフィールの動画】

### ③ 『schoolTakt』 の位置づけと取り組み

クラーク高校では、『schoolTakt』を、「主体的・対話的な深い学び」に向けた、アクティブラーニング型の授業実践の効果的な促進ツールの一つとして位置づけた。『schoolTakt』では、プリント・資料や板書内容をデジタル化し、生徒に配信することができる。また生徒のアイデアや解答を生徒全員のタブレットや教室のTVモニタに映写し共有することができ、より効果的な協働学習が可能となった。これにより生徒一人ひとりの考えや理解度、学習に取り組む姿勢を把握しやすくなった。

代表的な取り組み事例は、授業内におけるグループディスカッション等での活用である。グループディスカッション用の資料として、デジタル化されたワークシートを『schoolTakt』を用いて生徒のタブレット端末に配信し、個々に考えをまとめさせた。『schoolTakt』上では生徒が入力した考えをリアルタイムで共有することが可能であり、生徒同士の意見交換が活発になった。言葉を通して考えを伝えることが苦手な生徒であっても、『schoolTakt』を活用することにより相手に自分の考えを伝えやすくなった。加えて、一人では解決が困難な課題においても他者と協働することで解決を図ることが可能となることや、協働の繰り返しが、新たな知識の発見・修得につながるという気づきを生徒に与えることができた。



【schoolTakt を活用し、グループの考えをクラスで共有している様子】

### (2) 今後について

「ICT活用状況についてのアンケート」を生徒に実施した。その結果から、ある程度の活用促進がされていると判断できた。『Evernote』『Brushup』『schoolTakt』のようなツールは、便利で有用なものである一方で、使い方次第でその効果は大きく変わってくるとも考える。「質の高い使い方を如何にクラーク高校で創出していくか」が今後の課題であると考えている。今後においては活用率を高めると共に、効果的な活用の検証と共有を行っていく。

#### 【「ICT活用状況についてのアンケート」結果】

実施時期	Evernote	Brushup	schoolTakt
12月	92.5%	44.0%	84.1%
3月	実施予定	実施予定	実施予定

## 4. キャリア教育の構築

### (1) 「キャリア教育」実施の背景

#### ① 社会の変化に対応した教育の実現

クラーク高校では、従来から「キャリア教育」を展開していたが、専門学校での職業体験や企業人を招いての講演等が中心であり、未来を見据えた一人一人のキャリア発達を目的としたものではなかった。今後の社会で柔軟に生き抜く力を育成するために、キャリア教育の在り方を見つめ直し、文部科学省の示す、キャリア教育の定義「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育（中央教育審議会「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（答申）」（平成23年1月31日）に基づき、人間の基盤となる資質・能力を主とした独自のキャリア教育の実現に踏み切った。

#### ② 大学入試改革に対応した教育の実現

2020年度より大学入学試験は、今まで以上に多面的な能力や適性を評価する試験へと変化する。そのため、これまでの学校教育を大きく見直し、知識・技能の習得のみに留まらず「どのような資質・能力を身に付けさせるのか」まで踏み込む必要が生まれた。クラーク高校においても、特徴的な教育活動を多く展開しているが、そこから得られる資質や能力を生徒自身が明確に理解できていなかった。その為、より広い視点でカリキュラム等を見直し、横断的で総合的な教育の展開をする必要があった。その切り口として、教科の授業と学校での様々な活動を関連付けるための教育として「キャリア教育」を糸口とした。

### (2) キャリア教育授業の開発プロセス

クラーク高校でのキャリア教育の展開は、平成27年7月からスタートし、大きく2つの側面から展開を行った。

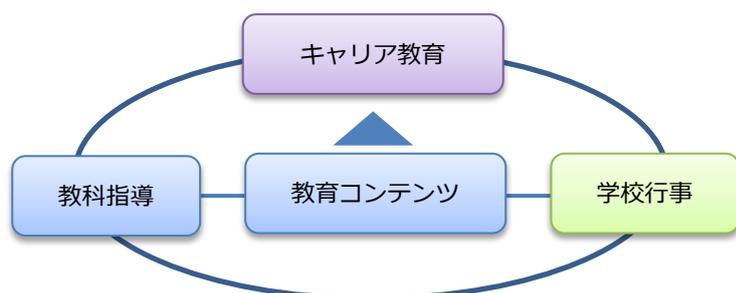
#### ① キャリア教育授業の構築

クラーク独自のキャリア教育（新たなキャリア教育授業）を企画・立案し、共通カリキュラムとして全国のキャンパスに導入することで、生徒の「確かな学力※」の構築を図り、大学入試改革へ向けた1つの施策として意識付けた。

※新学習指導要領のねらいと「確かな学力」の育成について：文部科学省

＜抜粋＞知識や技能はもちろんのこと、これに加えて、学ぶ意欲や自分で課題を見付け、自ら学び、主体的に判断し、行動し、よりよく問題解決する資質や能力等まで含めたもの。

#### 【キャリア教育の位置づけ】



「キャリア教育」を1つの科目として位置付け、「教科指導」と「学校行事」を関連付ける。また、独自で作成し、共通化を図ることで、クラーク高校の教育コンテンツとして蓄積する。

## ② 教職員の育成と意識改革

クラーク高校独自のキャリア教育を展開するため、教材の開発をゼロから開始した。全国各地のキャンパスから10名の教職員を選出し「キャリア教育推進プロジェクト」を発足した。月1回の定例会議やWeb（SNS等）を活用した情報共有を通して、新たな教育を創出していくことを体現し、教職員の意識改革を図った。また、組織の運営方法も工夫し、生徒に培わせたい「主体的・対話的で深い学び」を教職員自らが実際に体験することを目的にアクティブラーニングの要素を組み込んだ会議形式を取り入れることで、教職員の人材育成も同時に図った。

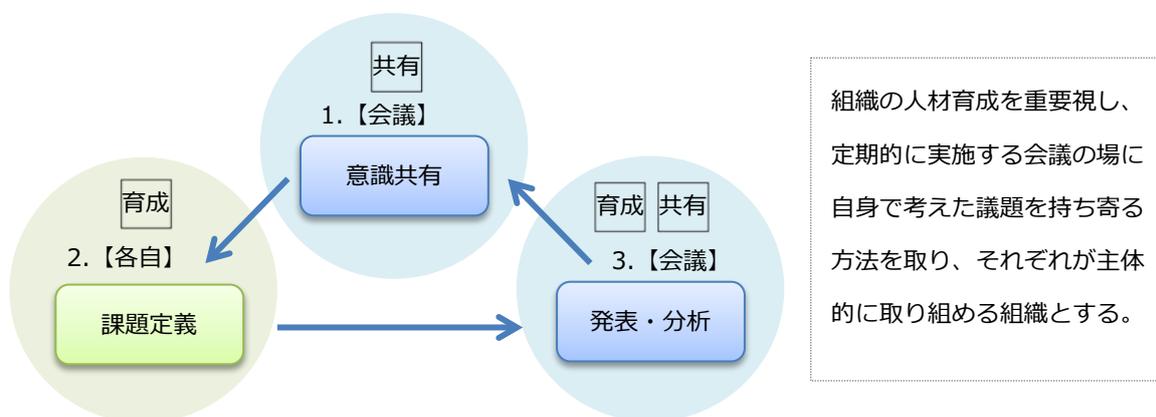
### 【組織の運営方法】

参加型ではなく主導型の会議形式とする

「意識共有」：定期的な打ち合わせで全体的な意識統一と情報共有

「議題定義」：それぞれが持ち帰った議題に対して各自で取り組む

「確認・分析」：議題の確認や更なる発展を目指して分析を行う



### <会議の様子>



【会議の様子：KJ法でそれぞれのアイデアを整理】



【会議の様子：授業展開のアイデアをプレゼンテーション】

### ③ 展開スケジュール

時期	内容	備考	
H27	6月中旬	企画内容検討・企画書作成	
	7月中旬	全国経営会議にて企画立案（プレゼン）	
	7月下旬	組織立ち上げ準備（人選及び組織構成）	全国の教職員から選定
	8月下旬	組織メンバーの選定（教職員面談及び意思確認）	
	9月初旬	第1回キャリア教育推進部会会議の実施	
	9月～	定期的に打ち合わせ及び情報交換を実施 方向性・意識統一、カリキュラム案の作成	TV会議等を有効に活用
	11月～	キャリア教育授業「キャリア学習Ⅰ」の教材の作成開始（重要単元から先行して作成）※会議・打ち合わせを定期で実施	27年4月～28年3月 月1回：キャリア教育推進委員会 定例会議を実施
H28	1月下旬	「キャリア学習Ⅰ」のイメージ・方向性の提案	
	3月下旬	全国経営会議にて状況報告「キャリア学習Ⅰ」の展開方法について	パイロットキャンパスにて実施
	4月～	【試験運用】パイロットキャンパス（組織メンバー所属キャンパス）で「キャリア学習Ⅰ」を試験的運用開始	28年4月～29年3月 月1回：キャリア教育推進委員会 定例会議を実施
		継続して「キャリア学習Ⅰ」のカリキュラム・コンテンツの作成 ※パイロットキャンパスでの運用状況を考察・分析しブラッシュアップ	
		新たに「キャリア学習Ⅱ」の提案 カリキュラム・コンテンツの作成開始	
	8月	教職員総会にて発表（プレゼン） 「キャリア学習Ⅰ」の実施報告及び「キャリア学習Ⅱ」の構想について	※教職員共有・理解
	3月	全国経営会議にて成果発表（プレゼン） 「キャリア学習Ⅰ」の全国展開及び「キャリア学習Ⅱ」の試験運用について	全国展開及びパイロットキャンパスにて実施
H29	4月～	【全国導入】「キャリア学習Ⅰ」の全国導入 【試験運用】パイロットキャンパス（組織メンバー所属キャンパス）で「キャリア学習Ⅱ」を試験的運用開始	29年4月～30年3月 月1回：キャリア教育推進委員会 定例会議を実施
	8月	教職員総会にて発表（プレゼン） 「キャリア学習Ⅱ」の実施報告	※教職員共有・理解
	2月	教科部会全国委員会にて「キャリア学習Ⅰ・Ⅱ」について発表（プレゼン）	キャリア部会として新たに教科部会に所属
	3月	全国経営会議にて成果発表（プレゼン） 「キャリア学習Ⅱ」の全国展開について	全国展開について
H30	4月～	【全国導入】「キャリア学習Ⅰ」「キャリア学習Ⅱ」を全国のキャンパスで実施開始	
	10月	「キャリア学習Ⅱ」の再構築 更なる発展に向けて新たな教材を開発検討	
	2月	教科部会全国委員会にて「キャリア学習Ⅱ」の構想発表（プレゼン）	※教職員共有・理解

### (3) 「キャリア学習Ⅰ」の概要

「キャリア学習Ⅰ」については、1学年の「総合的な学習の時間」で展開する授業として、週1コマ実施。「キャリア学習Ⅰ」を通して、特に重要視したことは、生徒の意識改革である。本授業では、学力の3要素にある「主体性・協働性・多様性」と「思考力・判断力・表現力」（以下「6つの資質・能力」と表記）を体系的に理解し、生徒の意識にインプットする学習を目的とした。「6つの資質・能力」については、「知識・技能」とは異なり、数値化することが難しく、従来の授業やテストで伸ばすことが困難であり、生徒自らが気づき、意識することで伸ばすことができると感じ、生徒に意識させるためのインプット型学習を主体とした。

#### <カリキュラム>※一部抜粋

「6つの資質・能力」を系統立て理解できる仕組みを構築した(例:主体性とは→主体性ワーク)

No.	単元名		単元について	パフォーマンススキル						形式※ 中心となるもの
				思考力	判断力	表現力	主体性	協働性	多様性	
1	キャリア教育について①	社会で求められる力(夢・挑戦・達成)	【導入】 2コマパッケージ型 2コマ×1h=2h							PT
2	キャリア教育について②	クラークのキャリア教育を知る								PT
3	学ぶとは①(ポートフォリオ:蓄積)	eポートフォリオの蓄積(記録することの価値)	【eポートフォリオ】 3コマパッケージ型							PT, GW
4	主体性とは	夢と目標を持つ意味	【スキル群[性]】  2コマパッケージ型  次週に向けたMission とセットで定着  2コマ×3スキル=6h				●			PT
5	主体性ワーク	主体的行動の実現に向けて					●			GW
6	多様性とは	違いを認め、受け入れる力							●	PT
7	多様性ワーク	違いを認め、受け入れるために							●	GW
8	協働性とは	無限の成果を生み出すコツ						●		PT
9	協働性ワーク	個性を活かし成果に変える					●		GW	
10	学ぶとは②(ポートフォリオ:共有)	eポートフォリオの共有(蓄積の質を高める)	【eポートフォリオ】 3コマパッケージ型							PT, GW

#### <キャリア学習Ⅰ:教材ラインナップ>

授業を実施するために必要な教材として、①「PowerPoint データ」②「実施マニュアル」③「ワークシート」を作成。

授業での活用に関しては、情報教材として①「PowerPoint データ」をスクリーンに投影し、担当教職員が②「実施マニュアル」に沿って、③「ワークシート」を用いて、生徒は各授業の中で自分の考えをアウトプットする。

### ① 授業 PowerPoint データ

生徒の興味・関心を高めるため、デザイン重視のわかりやすいスライドを作成。授業実施者は、これらをスクリーンに投影し、情報教材として活用。



### ② 実施マニュアル

上記①のスライドに応じて説明内容が記載された授業実施者用マニュアルを作成。



### ③ 授業ワークシート

授業の中では ICT を活用したワークシートで学習し、自身の成果物を日々蓄積していく。



#### (4) 「キャリア学習Ⅱ」の概要

「キャリア学習Ⅱ」については、2学年の「総合的な学習の時間」で展開する授業として、週1コマ実施。「キャリア学習Ⅰ」でインプットした「6つの資質・能力」を「キャリア学習Ⅱ」を通してアウトプットする学習を展開した。答えのない課題に対して、生徒が自ら考え、行動することのできる内容とし、世界の課題でもある「SDGs」の「働きがいも経済成長も」を題材に、グループワークを中心とした「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した授業展開とした。

#### <カリキュラム>※一部抜粋

「働きがい」と「経済成長」について様々な角度から分析し、固定概念に縛られない自由な発想でアイデアを出し合い、議論を重ねることができる構成とした。

キャリア学習Ⅱ：Career Learning Curriculum Ⅱ		Missionプレゼンテーマ		SDGs 8 働きがいも経済成長も	
№	ア イ	単元名	達成目安		
1	共通	① キャリア学習Ⅰの振り返り キャリア学習Ⅱの導入	6つのスキルを振り返ろう 6つのスキルを活用しよう	1年次に学習した6つのスキル（思考力、判断力、表現力、主体性、協働性、多様性）を振り返る。キャリア学習Ⅱの位置づけを説明。	
2		② SDGsとは？	キャリア学習Ⅱのスタート SDGs 1,7の目標とは	これまで様々な角度から、社会で求められる力について考えてきたが、次はこのスキルを活用していくことが必要となる。活用するために、SDGs 1,7の目標に合わせて、多面的な視点から学び続ける中で、最終プレゼンに向けての自らの結論を導き出す。	
3	I 「働きがい」ってなに？	③ 「働きがい」ってなに？	「働きがい」とはどういうことなのか？様々な事例や取り組み等を必ず ※説明→ミニワーク	働きがいについて「なぜ」職業で取り組むのか ①働き方改革やAI、人口問題など社会の現状や背景を説明 ②自分の仕事コンセンサス（職業生業の強み） ③代表的な5つ職種で自分の考えられる働きがいを書き出し、さらに出した5つ職種のやりがいから自分の上位5つをリストアップ ④なぜそれを選んだのかを答える。→空白欄に事前準備。	
4		④ 「働きがい」を定義する	様々な働きがいを知り、自分自身の価値観やイメージと照らし合わせて1つの「働きがい」を定義する。 ※グループワーク（ワークシート）	①個人の働きがいをグループに共有 ②自分たちのグループの働きがいをもつに絞る ③ここで制限カードを提示する。 ④制限カードを踏まえて、自分たちの働きがいを選ぶ。働きがいを決めると同時に制限カードにはネガティブなものだけではなく、豊かな暮らしを実現も出来る	
5		⑤ 私が考える「働きがい」	各グループの発表 ※発表	①発表 A：5つを理由 B：制限はどんな制限だったか C：それを踏まえての働きがいとは 上記を説明していること ②評価 ③評価ポイント ④質問（納得できるものだったか）を評価基準として評価→もっと多くの評価項目が欲しいところをまとめ	
6	※I 補足	⑥ 「働きがい」がなぜ重要か	※企業運営の歴史も可（キャンパスにより異なる）	甲壳子までの学歴の理解に、設立フロンティアを中心に行う。	
7	II 「働きがい」と社会	⑦ 世界の「働きがい」の違い	世界各國の「働きがい」について調べ、世界各國の「働きがい」についての違いや共通点を探る。 ※グループワーク（ワークシート）	世界の働きがいの違いについて知る→違いを生み出される要因は何か ①世界各國の文化・価値観・コンセンサスを探る （調べた国の歴史や社会情勢と一緒に調べる） ②各グループ発表 ③その国の文化・価値観・コンセンサスに基づいているのかを考へてみる。 ④発展途上国や戦争中の国で生まれたらどうしたら、仕事でどんなやりがい求めるか考へる。 （自給自足は必要ではなく、学費などを支えて勉強したい） 日本の仕事ややりがいの変化について調べる	
8		⑧ 日本の「働きがい」の変化	日本の「働きがい」の変化について調べ、社会の変化や時代の流れと日本の「働きがい」の関係や共通点を探る。 ※グループワーク（ワークシート）	①日本の文化・価値観・コンセンサスを探る（50・40・30・20・10年前） （なぜ時代でコンセンサスが変わってくるのか） ②それぞれの時代背景を調べ取り、日本がどんな時代でなぜその職業に人気があったのか考へる。 ③今後はどんな職業に人気が出てくるか 同じ職業でも、人によって働きがいに違いが出ることを考えさせる。 ④1つ以上の職業を選び、その職業のやりがいを個人個人で考えさせる	
9		⑨ これからの社会で求められる「働きがい」	これからの社会で求められる「働きがい」について考察し発表する。	①これにより、同じ職業でも人によってやりがいは変わってくる ②次に、自分自身が仕事に求めるやりがいを考へる。やりがいを阻害する要因も考へさせる。（働き方改革に少しだけ触れる内容。なぜ、働き方改革が起きているのか）	

#### <キャリア学習Ⅱ：教材ラインナップ>

キャリア学習Ⅰ同様に①「PowerPoint データ」②「実施マニュアル」③「ワークシート」を作成した。特にキャリア学習Ⅱはアウトプット型の授業が展開できるよう、③「ワークシート」に工夫を行った。

評価

班 発表者： \_\_\_\_\_ 評価者： \_\_\_\_\_ 合計 \_\_\_\_\_ /50点

Questions ① 働きがいについて、しっかり考えられているか  
 Questions ② 議論を聞きながら、自分の考えを導き出すことができるか  
 Questions ③ 多様な意見から物事を捉えられているか  
 Questions ④ 多様な働きがいについて、自分自身の価値観やイメージと照らし合わせて1つの「働きがい」を定義することができるか  
 Questions ⑤ 自分が考える「働きがい」を発表することができるか  
 Questions ⑥ 世界の「働きがい」の違いについて調べ、世界各國の「働きがい」についての違いや共通点を探ることができるか  
 Questions ⑦ 日本の「働きがい」の変化について調べ、社会の変化や時代の流れと日本の「働きがい」の関係や共通点を探ることができるか  
 Questions ⑧ これからの社会で求められる「働きがい」について考察し発表することができるか

あなたの働きがいについて考えよう

私が選ぶ働きがいベスト5は…

なぜこの5つなのかという…

最終的に、私の働きがいとは…

Clark Career Education Ⅱ

## (5) 実施状況から見る今後の課題

これらの学習を通して、知識・技能のように明確に数値化された生徒の成長を示すことはできないが、実施前と後では明らかに生徒に意識の変化が見られた。「キャリア学習Ⅰ」では、主体性・多様性・協働性・思考力・判断力・表現力の6つの資質・能力を生徒にインプットすることで、生徒一人ひとりが自分自身でその資質・能力を意識した学校生活を過ごせることを目指した。その結果、学校行事の事後学習で振り返りレポートを実施すると、大半の生徒が、これらの資質・能力に意識をし、物事を考えることができるようになった。また事前学習においても、自分が身に付けたいと思う資質・能力に対して、あらかじめ意識できたようで生徒が明確な目的意識を持って学校行事に参加するようになったと考える。

次年度以降は、現在展開している「キャリア学習Ⅱ」を更にブラッシュアップし、より生徒が社会に対して密接になり、また生徒にとって現実的な課題に対して取り組める展開を新たに構築中である。クラーク高校でのキャリア教育は、スタートした平成27年度から現在まで、試行錯誤しながら改善を繰り返し、その時の生徒の特性や個性に合わせて展開をしてきた。また、社会の変化や教育の変化に合わせて、教材や展開方法も常にリニューアルをして、その時、その瞬間に合わせた柔軟な教育を展開している。

キャリア教育の定義「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」に示されている通り、キャリア教育とは、生徒を未来へと導くための道であり、轍となる教育である。これからも、更なるキャリア教育の向上を模索していく。

## 5. いじめの対応について

### (1) 「いじめ」の考え方について

クラーク高校では基本的な考え方として、被害生徒の生命・身体の尊重を第一に、いじめを早期に発見し対応するため、生徒が「嫌な思いをした」というものから広く丁寧に把握してきた。成長過程にある生徒が集団で学校生活を送る上でどうしても発生するもので、「いじめゼロ」はあり得ないというスタンスである。そのことから、いじめの認知件数が多いキャンパスについては、教職員の目が行き届いている状況であると考えている。逆にいじめの認知が極めて少ない場合は、いじめを見逃していないかという懸念がある。そのためクラーク高校では全国生活指導部と東日本・西日本危機管理課で管理と集計を行っており、全国の状況が把握できるようチェック機能を強化している。

### (2) 「いじめアンケート」の実施目的と実施方法について

「いじめアンケート」を実施目的は、全教職員でいじめの実態把握を正確に認知し、早期発見・早期対応に繋げ、一人ひとりが安心・安全な学校生活を送れるようにすることである。

クラーク高校では年2回、文部科学省の「いじめの問題への対応」の資料等を参考にして作成した「いじめ調査アンケート」を紙ベースで実施し、それを最大限活用する方針を立てている。各キャンパスでは調査の実施にあたり、全教職員への調査目的等の共通理解を図るとともに、生徒に対しても、十分理解させたうえで実施している。しかしアンケートはいじめを把握する手立ての一つであり、アンケートにより全てのいじめが把握できるものではないと考え、実施したアンケートを踏まえて記載のあった全ての生徒を対象に丁寧に聞き取り調査を行っている。また、いじめが「解消している」という状態であったとしても、被害生徒及び加害生徒については、継続して注意深く観察していくようにしている。

### (3) 「いじめアンケート」の実施と実態の把握について

クラーク高校では、6月と12月で年間2回の「いじめアンケート」を実施しており、いずれもアンケート用紙の回収率は100%となっている。また、6月と12月に実施した「いじめアンケート」に記入のあったいじめ認知件数については、以下の表のとおりである。

(アンケートによるいじめ認知件数表)

	H30.6	H30.12
1年男子	35件	54件
2年男子	25件	34件
3年男子	9件	22件
1年女子	40件	52件
2年女子	18件	45件
3年女子	20件	33件
合計	147件	240件

6月では、147件であったが、12月では240件といじめ認知件数が上昇している。6月のアンケートの結果を踏まえ、12月のアンケートを実施する際に「些細なことでも記入すること」「いじめ かもしれない という微妙なものも記入すること」ということを再度、徹底して伝達した結果、認知件数が上昇していると考察する。12月のアンケート結果には、「悪口を言われている のではないか」、「からかわられているのではないか」、「あの子はいじめられているのではないか」という推測的な回答が増えたが、各キャンパスで早期対応をすることで大きな問題につながるケースは現状では発生していない。しかし上記でも記載の通り継続して注意深く観察していくようにしている。

クラーク高校では今後も「いじめアンケート」の年2回の実施と100%の回収率を維持し、アンケート結果に対して早期に的確な対応ができるよう努めていく。

**「いじめ」に関するアンケート調査**

クラーク記念国際高等学校  
○×キャンパス

年 月 日 氏名 \_\_\_\_\_

学校生活をより良いものにするための「いじめ」に関するアンケートを実施いたします。各質問に対して、当てはまる回答に○を記入、もしくは記述してください。

**<<< 必ず読んでください >>>**

**今年の4月からの「いじめ」について記入してください。**

**※中学生時のことや、昨年度の内容は含まないので注意して下さい。**

**Q.1**

(1) クラーク高校 ●●キャンパスにおいて平成30年4月からの期間で、クラークの生徒から「いじめ」を受けたことがありますか。  
① ( ) ない    ② ( ) ある

下は(1)で②「ある」を選択した人へのみ回答  
以下の(2)～(4)は、上記(1)の質問で②「ある」と答えた人へのみ回答してください。

(2) どのような「いじめ」ですか。また、何月から「いじめ」が始まりましたか。当てはまるもの全てを選んでください。

① ( ) 肉体的・暴力によるもの  
【具体的な内容】 \_\_\_\_\_ [何月から] \_\_\_\_\_

② ( ) 言葉・態度によるもの  
【具体的な内容】 \_\_\_\_\_ [何月から] \_\_\_\_\_

③ ( ) ネット上での言葉の暴力によるもの  
【具体的な内容】 \_\_\_\_\_ [何月から] \_\_\_\_\_

④ ( ) その他  
【具体的な内容】 \_\_\_\_\_ [何月から] \_\_\_\_\_

(3) 現在も続けているものはありますか。  
① ( ) ない    ② ( ) ある  
→ [なくなるまでどれくらいの期間かかりましたか] \_\_\_\_\_  
【具体的な相手】  
① ( ) 先輩    ② ( ) 同級生    ③ ( ) 後輩  
【相手の名前】 \_\_\_\_\_

(4) その「いじめ」は、いつ・どこで起こっているものですか。  
[いつ]⇒ \_\_\_\_\_ [どこで]⇒ \_\_\_\_\_

**Q.2**

(1) クラーク高校 ●●キャンパスにおいて平成30年4月からの期間でクラークの生徒に「いじめ」をしたことがありますか。  
① ( ) ない    ② ( ) ある

下は(1)で②「ある」を選択した人へのみ回答  
以下の(2)～(4)は、上記(1)の質問で②「ある」と答えた人へのみ回答してください。

(2) どのような「いじめ」ですか。当てはまるもの全てを選んでください。

① ( ) 肉体的・暴力によるもの  
【具体的な内容】 \_\_\_\_\_

② ( ) 言葉・態度によるもの  
【具体的な内容】 \_\_\_\_\_

③ ( ) ネット上での言葉の暴力によるもの  
【具体的な内容】 \_\_\_\_\_

④ ( ) その他  
【具体的な内容】 \_\_\_\_\_

(3) 現在も続けているものはありますか。  
① ( ) ない    ② ( ) ある  
→ [どのくらいの期間続けましたか] \_\_\_\_\_

回収については封筒に入れて担任に直接渡してください。  
みんなで協力し合って快適な学校生活を維持しましょう。

【「いじめ」に関するアンケート調査の用紙】

#### (4) 今後の対応

クラーク高校では生徒一人ひとりに対応していくという意識を高めており、いじめアンケート調査だけではなく、普段からの「一対一対応」をより強化し、いじめ防止・いじめの早期発見に努めている。教職員の朝の立哨から始まり、一人ひとりへの丁寧な声掛けを通して学校生活での異変を早期に察知することに力を入れている。教職員対象の「学習心理支援カウンセラー」の研修では生徒の小さな変化を見逃さないように、またそのサインが出た際の即時に行う対応技術についても学習する。またクラーク高校では「ピアアシスタント」の資格を取得している生徒がいる。生徒間での問題解決を目的に基礎心理学を学び、コミュニケーション力を身に着ける資格である。教職員の縦の目で見守るだけでなく、生徒間の横の目もいじめの防止に役立っている。

今後について、上記活動をより強化していき、いじめが起りにくい環境づくりにも力を入れていく。具体的な取り組みとして、教職員対象の研修である「学習心理支援カウンセラー実践課程」でのいじめ防止にかかわる研修の更なる充実と生徒を対象とした「ピアアシスタント」の資格をより推奨していき、取得者を増やす取り組みを行っていく。

## 〈平成 30 年度 研究総括〉

### 1. 生徒意識調査アンケートについて

#### (1) 研究キャンパスの選定

今年度の研究に際しては、地区別・規模別に4キャンパスを選定した。尚、選定したキャンパスの昨年度の「生徒意識調査アンケート」の「学校満足度」は以下の通りである。

〈平成 29 年度 生徒意識調査アンケートの学校満足度の結果〉

キャンパス	満足度
A	66%
B	65%
C	66%
D	70%

#### (2) アンケートの概要説明

アンケート内容は4区分、14分類、20設問で構成され、クラーク高校における学校生活の状況を多角的に検証が出来るように配慮している。回答はマークシート記入で『週5日コース生徒』『単位制生徒』『週5日コース保護者』『単位制保護者』の4区分に分けている。設問内容は基本的に『生徒用』『保護者用』と同じだが、アンケートの違いとして『週5日コース』『単位制コース』それぞれに特化した設問も設置している。

特に、「学校満足度」に関しては、今年度実施した研究取り組みの指標として、注意深く動向を観察し、生徒の要望とそれに対する満足度等の状況に合った対策を講じるようにしている。

#### (3) 「学校満足度」の結果について

以下の表は、今年度選定したキャンパスの昨年度との比較をあらわしたものである。

〈「生徒意識調査アンケート」の「学校満足度」の比較（H29 と H30）〉

キャンパス	H29	H30	増減
A	66%	70%	+4%
B	65%	70%	+5%
C	66%	68%	+2%
D	70%	70%	0%

選定したキャンパスにおいて、数値面ではどのキャンパスも満足度が下がることなく、大半のキャンパスが上昇している。この数年、満足度に大きな変動はなかったが、「興味・関心にあった学習内容の選択」における重要度が向上し、コース・専攻・選択科目、ゼミ授業等、生徒の興味を引く授業へのニーズが高まっている。生徒の求めるものが、『ただ単に、卒業資格がほしい』という事ではなく、『せっかく勉強をするのであれば、自分が興味を持てる内容を学習したい』ということ

で、勉学に対する意欲が向上した生徒の入学者が増えてきたことが推測できる。そこにタブレットを活用したICT教育や新しいキャリア教育の活用を通して、将来を見つめることができたことで個々の生徒のモチベーションが上がったと考察している。

## 2. 最後に

この研究における新たな取り組みで生徒のやる気を引き上げることができたと判断する。「生徒意識調査アンケート」の「学校満足度」は下がることはなく、大半のキャンパスが数値を向上させた。そのことより今回の取り組みは一定の成果を得られたと考える。今後も「生徒意識調査アンケート」の更なる分析を継続し、多様な生徒のニーズに応え続ける学校体制を整えていく。またICT教育においては、生徒・教職員共にその目的を理解し、活用を始めるという意味では、一定の成果が生まれた。今後は引き続き推進に努めると共に、既存ツールの効果的な活用方法の検証・共有や新たなツールの模索等に力を入れていく。キャリア教育に関しては、生徒一人ひとりが将来、社会で必要とされる資質・能力を意識しながら、それぞれの次の進路に向けて目的を持ち、主体的に学校生活を過ごすことができるようになってきた。次年度はキャリア教育の更なる改定を行い、生徒が自ら課題を発見し、考え、判断し、行動をする資質を育成する「生徒がより主体的に課題を見つけて取り組むことができるキャリア学習のカリキュラム構築」を行っていく。また不登校を経験している生徒へのきめ細やかな対応ができる教職員の育成も引き続き図っていく。いじめの対応を含め、研究初年度では新たにミドルリーダー育成を目的とした3年目研修を実施した。研修後の行った教職員のアンケート結果の数値は向上しており、一定の成果を得ることができた。公立学校の一般的な教職員研修システムとして初年・5年目・10年目の研修が行われていると認識している。クラーク高校では目まぐるしく変化するこの時代に対応できる、1・3・6研修（初年度・3年目・6年目）の構築を行い、より早期に実践的な教育活動が行える教職員を育成し、ミドルリーダーとして生徒の未来を担う人材を育てたいと考える。

以 上

# 別 添 資 料

## 「2. (1) 個人カルテシステムについて ⑤操作画面イメージについて」

### 【サマリー情報画面】



タブレット端末にて『該当生徒検索条件』を設定し、絞り込みを掛けると、該当する生徒の一覧が表示される。その中から『該当生徒』を選ぶと、上記の通りその生徒の状況が一目でイメージできるように『サマリー画面』が表示される。より各情報を詳しく理解したい場合は、各情報の詳細照会画面を閲覧する仕組みとなっている。

各生徒の情報には、閲覧者がイメージ（判断）しやすいように『顔写真』を表示し、該当生徒の切り分けが実施しやすいようにしている。

### 【アイコンメニュー画面】



該当生徒の知りたい情報の分類を直感的に選択できるアイコンにより選択するメニュー画面。情報は、『詳細（学籍照会詳細）』『入学前』『留意事項』『保護者問い合わせ』『学費』『指導履歴』『目標設定』『面談履歴』『クラブ・委員会等活動』『日常メモ』『出席』『履修登録情報』『課題』『成績』『賞・資格・検定』『模試』『進路』の17種類のカテゴリーに分類し管理記録される仕組みとなっている。メニュー選択方法は、タブレット端末ならではの、タッチ方式である。（表示順の変更も可能）

【学籍情報詳細照会画面】

学生・生徒詳細画面  
②連絡先情報



学生・生徒詳細画面  
③入学情報



学生・生徒詳細画面  
④就学支援金受給状況



学生・生徒詳細画面  
⑤前在籍校情報



学生・生徒詳細画面  
⑥異動履歴



**補足事項**

- ✓ 左、右スワイプでタブ移動できます。
- ✓ 異動履歴タブは、表示できる情報がない場合、「該当情報なし」と表示されます。

生徒の基本的な情報を『連絡先』『入学情報』『就学支援金受給状況』『前在籍校情報』『異動履歴』等の項目に分けて、各情報を紹介する為の画面が構成されている。

生徒によっては、『前在籍校情報』『異動履歴』等情報が未表示（対象外）となることもある。

## 【出席情報照会画面】



図 A.



図 B.

出席状況照会機能では、日々登録された授業出欠情報を月別に集計し、授業総日数と出席日数を表示すると共に、折線グラフにて『全日数出席率』『全科目出席率』『科目別出席率』と目的に合わせて出席率を表示する様になっている。また、『出席状況（表）【図 A】』をタッチボタンにて選択することで、月別のグラフ表示されていた情報が、『数値表示』で表示されたり、『詳細【図 B】』を選択すると、日別・時限別の出欠状況の詳細が表示されたり、この日のどの授業を休んだのかなどの詳細情報が即時に判明する状況となっている。これにより、生徒の欠席傾向は『時間帯による原因』が主流なのか、『科目の好き嫌い（得意、不得意）』が原因なのかまで細かな傾向も早期に予測し対応することができる。

## 【留意事項照会画面】



生徒の『持病』『性格』『家庭環境』、資料添付を確認することで『アセス分析結果』等、特記すべき情報を保存管理する照会機能である。日々の授業や学校生活、教育環境を円滑に過ごすために必要な『留意事項情報』を集約するものである。尚、情報の性質上、他の一般教職員には知られたくない情報は、『非公開』として登録することが可能で、管理職以外には閲覧できない機能も付いている。(閲覧制限機能) この閲覧制限機能は、『面談履歴』『日常メモ』『保護者問い合わせ』『指導履歴』等の機能で活用ができる様に設定されている。

【成績照会画面】

図 1

成績情報表示画面  
②科目別成績



図 2

成績情報表示画面  
③スクーリング視聴



図 3

成績情報表示画面  
④レポート結果



図 4

成績情報表示画面  
⑤環境/基礎学力



生徒の成績情報として、『科目別成績 (図 1.)』『スクーリング視聴 (図 2.)』『レポート結果 (図 3.)』『基礎学力オールチェック実施状況 (図 4.)』の 4 つに分類し様々な角度から、状況を把握するための情報を管理照会できる機能となっている。

特に『科目別成績 (図 1.)』にて『評価レベルのグラフ表示』では、どの位置づけ、順位にいるのかを『矢印』で位置を表示する工夫がされており、点数だけではなく、相対的な立ち位置も把握できるようになっている。

## 【面談履歴照会画面】



生徒との面談履歴を照会する為の機能で、面談の種類毎に分類集計が出来る機能が付いている。面談の分類は『進路指導』『保護者問合せ』『留学指導』『目標設定』『生活指導』等、目的に合わせて分類が出来、集計することが出来る様にしている。この『面談履歴』には原則面談実施後に、『情報内容が劣化しない様にすぐに記録し、記録ポイントは『生徒の状態』『生徒の考え』『指導内容』『今後の方向性』などを箇条書きで見やすくまとめている。

この登録情報により、他の教職員も、この生徒に対してどのような指導がなされてきたのかを情報共有することが出来、引き続きの指導も円滑に進めることが可能となる。

分類分けした面談履歴情報は、各分類の照会画面で併せて閲覧できるようになっており、画面操作の手間を省ける配慮がされている。

## 【進路情報照会画面】



生徒の『進学合格実績』、『就職内定実績』の情報だけではなく『どこを受験したのか』等の途中経過も登録できる機能となっており、生徒への活動指針を明確に指導する為の情報が登録されている。この登録情報は、『学籍システム』への連携も図られ、学籍システムへの取込完了後は『一覧表出力』『卒業生情報への進路結果反映』等にも活用されるようになっている。

もちろん先の、『面談履歴情報』の呼び出しも可能で有り、どのような指導を行ったかを『記録に残せる』仕組みとなっており、指導経緯を確認しながら指導を実施することが可能である。

## 【クラブ・委員会等活動履歴画面】

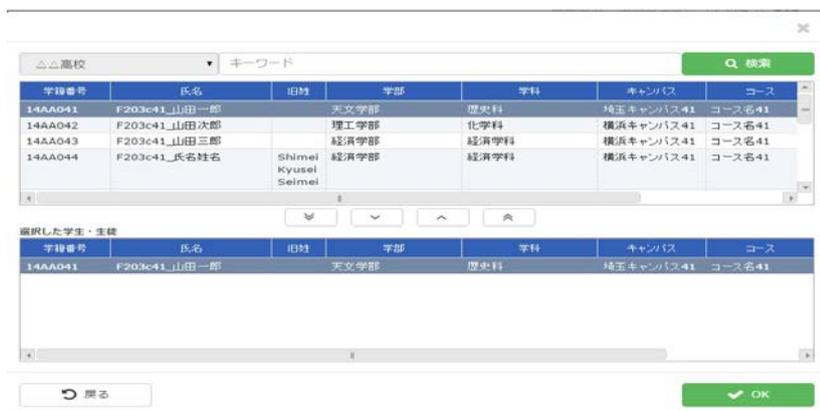


生徒の所属する『クラブ』や『委員会』等の分類を登録し、それぞれにおいてどのような活動をしたのかを記録する為の機能で、記録は『テキスト情報』だけではなく『動画』『写真』『添付資料』などビジュアルでの情報も登録することが可能である。保護者との面談の際には、その状況をビジュアル表現することで『具体的な動き』をイメージできるようにしている。【長尺な動画は、YouTubeへのUPにより動画が閲覧できる仕組みとなっている。】情報の登録は、PC機能を活用している。

## 【賞・資格・検定取得情報画面】



PC入力画面より『該当する資格等の基本情報』と『受験該当生徒情報』の登録を行う。



『受験該当生徒情報』の登録はPC入力機能を活用し『該当資格』の受験該当生徒を選択し登録する。



PCにて登録された結果、生徒の取得しようとした『資格』や『検定』と、『賞』の受賞経歴を照会する機能で、生徒一人ひとりが今何に頑張っているのか、どの方向性に向かい成長をしようとしているのかを把握するための情報で、『受験段階』から記録を管理することが出来る。よって不合格情報も記録されるシステムとなっている。

### 【日常メモ（テキスト入力）画面】



日常メモ機能がこの個人カルテシステムの『特徴』の一つとも言える機能である。この機能を活用することにより、日々の生徒一人ひとりの成長や変化を記録することができるからである。関連種別の設定をすることで、面談履歴と同様に『各機能の照会画面』に紐づき、速やかに閲覧することができる仕組みとなっている。『日常メモ』にはもちろんのこと『添付機能』があり、『写真』『動画』『添付資料』を紐づけることが可能である。

### 【日常メモ（手書き入力）画面】



上記『日常メモ（テキスト入力）』と同じ目的ではあるが、テキスト入力のものとは別に、『面談』等で説明の際に描かれた情報（資料）をその場で記入し保存する為の機能である。その場で即時、記載ができ、閲覧も即時に行えるため、より具体的な面談実績の記録とすることができる。これは、タブレットのペン記載機能を活用した、タブレット端末ならではの機能である。